

類似品にご注意！

—安全性を軽視した類似品にご注意—

最近一部のホームセンター等で弊社開発のノンフロンブローに酷似した製品が販売されているようです。

弊社製品は各社にOEM供給しておりますので、どれが弊社製かは別紙項目と写真等を参考にさせていただきようお願いいたします。

弊社の「ノンフロンブロー」は地球温暖化防止の観点から、地球温暖化係数の高い地球温暖化ガスの大気放出を避ける為、地球温暖化係数1以下の可燃性ガスを使用しております。もし可燃性ガスが液化ガスで噴射された場合、ガスは急速に気化し、周辺の可燃濃度を高める為に、引火事故の危険性が高まります。弊社製品はこれを避ける為、ユーザー様で想定できる噴射方法を考慮し、液化ガスが噴射しないように独自開発した吸収体を内蔵しております。これにより、どのような角度の連続使用でも、液化ガスを放出しないよう安全性の追及を図っており、現在まで約1,400万本以上の実績があり、市場に最も信頼されている製品です。

これに対し類似品は、同じ地球温暖化係数が低い可燃性ガス(DME・LPG等)を使用していますが、弊社開発の吸収体に形状を似せた物を缶に挿入しただけの製品で、ユーザー様の安全を深く考えずに商品化したものと思われます。弊社の調査によりますと、類似品は噴射方法や噴射角度により、液化ガスを噴射させる場合があり、引火事故の危険性が高い製品と思われます。特にLPG(ブタン・プロパンガス等)はDMEよりも可燃度は高く、カセットコンロ用のボンベをそのままホコリ飛ばしに応用したものと同等、それ以上の危険度ははらんでいます。LPGでは気化ガスであっても引火の危険性が高く、プロパンガスを使用したものは引火したときの燃焼エネルギー数値はDMEの約2倍もあり非常に危険です。

また、LPG・DMEは溶解性が高く、液化で噴射されると対象物の種類、特に樹脂に対して変色変形する可能性もあります。

さらに、弊社は特許侵害の恐れがある類似品には、特許共同出願者各社と連携し、断固とした態度で対処いたします。

弊社製の特長

- ①高耐圧力である2ピース缶を使用しています。(写真1参照)
- ②多くの場合「ノンフロンマーク」を表示しております。(写真3参照)
- ③多くの場合「噴射ガスはDME、炭酸ガス(CO₂)」です。(写真4参照)
- ④逆さ噴射しても液化ガスの噴射はありません。

類似品は

- ①3P缶を使用しております。(写真2参照)
- ②「ノンフロンマーク」は一切入っていないか、間違った表記をされています。
- ③噴射ガスはDMEのみです。
- ④0～20秒連続逆さ噴射すると液化ガスが噴射する可能性があります。

②につきましては弊社製であっても一部「ノンフロンマーク」の表示がない場合もあります。

③につきましては弊社製であっても一部「噴射ガスがDMEのみ」の場合があります。

チェック項目

ノンフロン製品なのか？

裏面表記参照

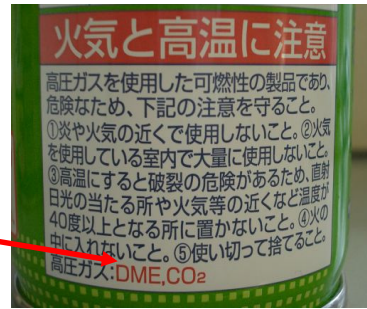
噴射ガス表記

ノンフロンの場合

DME・炭酸ガス・CO2の表記

フロン製品の場合

HFC-152a等HFCもしくはHFOの表記いずれかひとつでも



① 缶の種類

2P缶の例



継ぎ目なし

継目は底蓋部分のみ

弊社製は全てこれに該当

3P缶の例



写真2

継ぎ目

缶ショルダ一部分と缶胴部分に継目あり

② ノンフロンマーク表示



明日のためにノンフロン



写真3

多くの場合、弊社製の製品には上記マークが表記されております。但し、弊社の製品であっても表記されていない場合があります。

見分けが付きにくい場合は①の缶の種類でご判断ください。

③ 噴射ガス表示

多くの場合、弊社製の製品の噴射剤にはDME、炭酸ガス(CO2)の表示になっております。(写真参照) 但し、弊社製であってもDME単体製品もあります。

見分けが付きにくい場合は①の缶の種類でご判断ください。

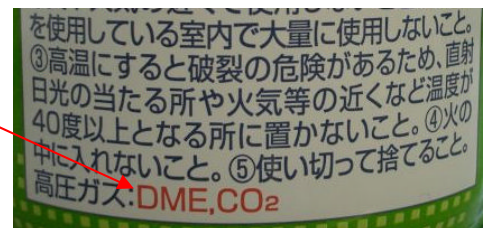


写真4

④ 液化ガスの噴射

残念ながら、この確認はご購入後しか確認できません。①②③の項目でご判断ください。